

令和7年度のアサリ放流が終了しました

11月5日、三枚洲にアサリを10トン放流し、今年度のアサリの放流が予定どおりすべて終了しました。今年度の放流量と放流場所は昨年度と同様で、三枚洲、羽田沖浅場、多摩川河口の3か所に合計51.2トンを放流しました（表1、図1、2）。アサリ放流と並行して、桁網や腰巻籠を用いての海底耕耘も実施し、年度内には、放流場所である東京湾内湾の浅場の3か所で延べ235ヘクタールの耕耘が終了する予定です（図3）。

近年、アサリの漁獲量は全国的に低迷しており、東京都内湾も例外ではありません。しかし、先月（11月）、三枚洲で行ったアサリ生息確認調査では、これまで採れなかった25mmサイズの1歳貝がかなりの量採捕され、昨年までの状況とは異なっていることが確認されました（図4）。早計に判断することはできませんが、これがアサリ復活の兆しとなり、来春に30mm～35mmのアサリが漁獲されるようになればと期待したいところです。

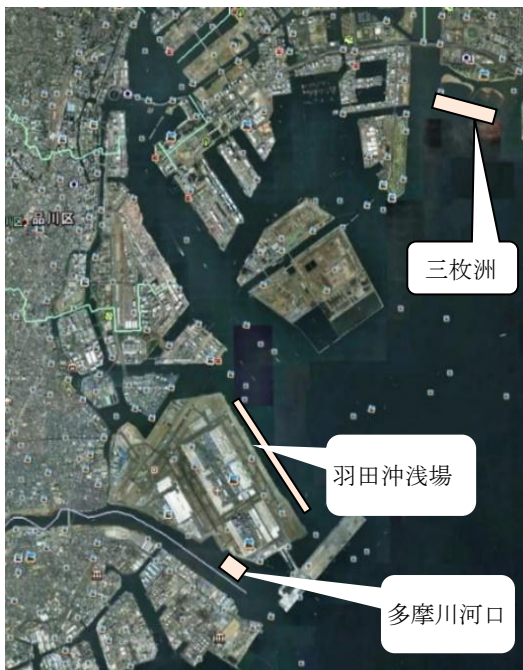


図1 放流及び海底耕耘の場所



図2 アサリ放流
(5月、三枚洲)



図3 腰巻籠による海底耕耘
(9月、多摩川河口)

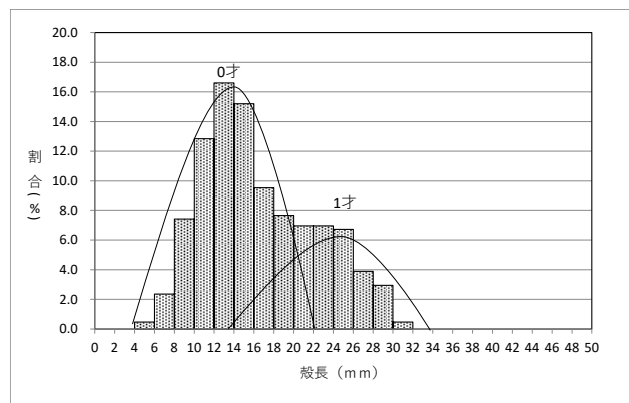


図4 アサリ殻長組成（11月、三枚洲）

表1 令和7年度 アサリ放流実績（トン）

放流場所	月	4月	5月	10月	11月	計
三枚洲		8	10		10	28
羽田沖浅場		7.2				7.2
多摩川河口				16		16
計		15.2	10	16	10	51.2